

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

【福島県】

1 実践テーマ	オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心の向上とスポーツを楽しむ心を育成する。また、世界の文化の理解し、多様性を尊重する態度の育成を図る。
2 実施対象者	吉井田小学校全児童 464名 ※ ニューイヤーコンサートは、本校児童・地域の方を含め約700名参加
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科、音楽科、家庭科、総合的な学習の時間、道徳) ② 行事名 (ニューイヤーコンサート) ③ その他 (業間活動「マラソン」)
4 目標 (ねらい)	1 オリンピック・パラリンピック教育をとおして、スポーツの意義や価値などへの理解や関心を高めるとともに、障がい者を含めた多くの人たちがスポーツに参画していることを理解する。 2 競技開催地の県民・市民として、多様な文化を受け入れ、人々が互いの人権を尊重し合い、共に力を合わせて生活していることを理解する。
5 取組内容	<p>1 教科における実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年 体育科【ボール遊び】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「目かくししてボールわたしゲーム」行う。(3時間) ○ 2学年 音楽科【リズムあそび・おまつりの音楽】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本のまつりや世界の遊び歌を歌って楽しむ。(10時間) ○ 3学年 総合的な学習【世界は友だち】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホストタウンのスイスについて調べたり、チューリッヒ日本人学校の児童との交流を通して、スイスの生活・文化などを知る。(17時間) ○ 4学年 総合的な学習の時間【世界の国々】 <ul style="list-style-type: none"> ・ オリンピック・パラリンピックの視点から競技種目について調べ、興味をもった種目からそれが盛んな国のスポーツや文化・暮らしについて調べる。(各学級5時間) ○ 5学年 道徳【同じ空の下で】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際理解との関連を図りながら、近代オリンピックの父クーベルタン男爵について学ぶ。(各学級2時間) ○ 6学年 家庭科【家族と楽しく食事をしよう】 <ul style="list-style-type: none"> ・ スイスの菓子作りを体験を通して、ふれあいの時間をもつ。 6学年・道徳 オリンピアンである「加藤和さん」による講演(2時間) ○ 全学年・学級活動 オリンピック・パラリンピックマスコットキャラクター選定授業(1時間) <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="438 1675 850 1984" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="949 1675 1367 1984" data-label="Image"> </div> </div>

【スイスの菓子作り】

【加藤和さんによる講演】

2 教科外における実践

○ 特設マーチング部【ニューイヤーコンサート】

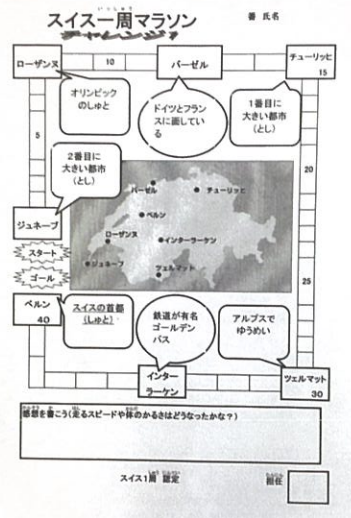
- ・ 1964東京オリンピックファンファーレ等オリンピックにまつわる曲を演奏演技する。
(2時間)

○ 業間活動【マラソン】

- ・ 持久力の向上を図る3種の「スイス1周カード」作成



【ニューイヤーコンサート
1964東京オリンピックファンファーレ】



【マラソンカード】

6 主な成果

○ 各学年の教育課程の内容で、オリンピック・パラリンピック教育と関連付けて実践できるものを洗い出し、2学期以降に取り組むものを具体的に立案した。そのため、各学年とも、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まった。また、福島市が、スイス連邦との間でホストタウン交流を行うことになっているので、スイスについても取り上げた。3学年では、チューリッヒの日本人学校とインターネットを通して交流を図り、スイスの文化や盛んなスポーツについて理解を深めることができた。

特設マーチング部「ニューイヤーコンサート」では、「1964東京オリンピックファンファーレ」によりスタートし、全校児童や地域の方々を魅了するとともに、オリンピックへの興味を高めた。

業間活動のマラソンカードでは今年度3種の「スイス1周カード」を作成した。カードは毎日見ることになるので、知らず知らずのうちにスイスの知識が身に付いたりスイスについての興味・関心を高めたりすることにつながった。また、マスコット選定では、低学年ではキャラクターのかわいらしさや超能力への驚きや親しみ、中学年では日本らしさや選手を応援する気持ち、高学年ではオリジナリティやおもてなしの心等について理解し、選定を通して参加意識や東京大会への関心を高めることができた。

これらの活動を通して、

- ① 東京オリンピック・パラリンピックの関心や期待が高まった。
- ② ホストタウンのスイス連邦への興味や親しみが高まった。
- ③ オリンピックやオリンピック選手への憧れが高まった。

など、多くの成果が見られた。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

- 今年度は、特別なことを実施するのではなく、本校の教育活動を点検しその中で関連のある学習・活動を洗い出し、各学年にて実施計画を立て実践を行ってきた。
- ホストタウンであるスイスについて、学年に応じてスポーツや文化・暮らしについて理解できるよう活動を吟味した。
- ニューイヤーコンサートの案内を支所を通し、地域に回覧した。

8 主な課題等

○ 今年度は、「まずやってみる」「できるところから始めてみる」段階であった。学校としての明確なテーマを設定し、「オリパラ教育全体計画」を作成し、教育課程への位置づけをしっかりと行って実践していく必要がある。その際は、オリ

	<p>パラ教育と各教科・領域の内容と関連を図り、時間的にも内容的にも無理のないものへとしていく必要がある。</p> <p>今年度は「できるところから」ということもあり、パラリンピック種目の体験は少なかった。また、オリンピックやパラリンピアンをお呼びして話を聞いたり、一緒にスポーツに取り組んだりする活動をとおして、スポーツに対する興味を高めたり、障がい者に対する理解を深めたりする。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○ オリンピック・パラリンピック教育について、今年度の内容も含め、教育計画や教育課程に位置づけ、計画的・継続的に実践する。</p>